



注) 軽症から重症まで幅広く使用できる薬剤を中心にフォーミュラリ策定を行ったため、このフロー図では使い方が限定されるケミカルメディエーター遊離抑制薬・プロスタグランジンD₂/トロンボキサンA₂受容体拮抗薬について省略した。

※抗ヒスタミン薬とLTRAの併用も可能

アレルギー総合ガイドライン2019
添付文書

参照

推奨	推奨						オプション									
	オロパタジン塩酸塩		フェキソフェナジン塩酸塩		レボセチリジン塩酸塩		デスロラタジン		ルパタジン							
一般的な製品名	GE：オロパタジン錠 先発：アレロック錠		GE：フェキソフェナジン錠 先発：アレグラ錠		GE：レボセチリジン錠 先発：ザイザル錠		GE：なし 先発：デザレックス錠		GE：なし 先発：ルパフィン錠							
標準1日薬価	20.2～38円 (10mg/日)		74.4円 (10mg/日)		25.6～51.4円 (120mg/日)		93.2円 (120mg/日)		26.9円 (5mg/日)		75.3円 (5mg/日)		57.2円 (5mg/日)		59.8円 (10mg/日)	
効能・効果	アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚そう痒症、尋常性乾癬、多形滲出性紅斑）に伴うそう痒		アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症、アトピー性皮膚炎）に伴うそう痒		アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚そう痒症		アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症）に伴うそう痒		アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚そう痒症							
用法	1日2回 経口投与（朝、就寝前）		1日2回 経口投与		1日1回 経口投与（就寝前）		1日1回 経口投与		1日1回 経口投与							
用量	1回5m g		1回60m g		1回5m g（最大：10m g）		1回5m g		1回10m g（最大：20m g）							
半減期（Hr）	8.75±4.63（60mg、成人）		9.6±5.7（60mg、成人）		7.33±0.98（5mg、成人）		19.5（5mg、単回）		4.76（10mg、単回）							
自動車運転等の注意	従事させないよう十分注意すること		記載なし		従事させないよう十分注意すること		記載なし		従事させないよう十分注意すること							
特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・尋常性乾癬、多形滲出性紅斑の適応あり ・2歳以上の小児に適応あり ・OD錠、顆粒、フィルムの発売あり 		<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦、授乳婦での有効性・安全性が高い ・自動車運転等注意の記載がない ・OD錠、ドライシロップの発売あり 		<ul style="list-style-type: none"> ・重度の腎障害（CCr<10）を有する患者は禁忌である ・生後6か月以上の小児に適応あり ・OD錠、シロップの発売あり 		<ul style="list-style-type: none"> ・運転に関する影響はプラセボと同程度とされている ・食事による影響を受けない ・GEの発売なし 		<ul style="list-style-type: none"> ・PAF受容体の拮抗作用を有し、即時相反応を抑制する ・代謝物のデスロラタジンも活性体であることから、即時反応、遅発性応ともに効果があるとされている ・GEの発売なし 							

解説

有効性・安全性・日本では2021年4月時点で、15種類の第2世代抗ヒスタミン剤が発売されている。

- ・アレルギー総合ガイドライン2019においては、中枢への影響を考慮し第2世代の使用が推奨されているが、第2世代間での使い分けについては明記されていない。
- ・海外の第2世代抗ヒスタミン薬のアルゴリズムにおいて、アレルギー性鼻炎および蕁麻疹において、フェキソフェナジンは有効性、安全性で優れていると記載されている2。オロパタジン、ベボタスチンは海外での承認がない。

推奨の理由

- ・有効性・安全性、各薬剤の特徴（上記）、経済性、処方実績を考慮し、推奨をオロパタジン、フェキソフェナジン、レボセチリジン、オプションをデスロラタジン、ルパタジンとした。
- ・なお、成人の抗アレルギー薬に対するフォーミュラリであることに留意して欲しい。また、抗ヒスタミン剤の有用性には個人差があるため、既存薬で効果が得られている場合にはこの限りではない。

参考文献

- 1：一般社団法人日本アレルギー学会：アレルギー総合ガイドライン2019、2019年6月14日（第1版）
- 2：Marysia Tiongco Recto, et al. Selecting optimal second-generation antihistamines for allergic rhinitis and urticaria in Asia. Clin Mol Allergy. 2017;15:19

天王寺区地域フォーミュラリ

第二世代抗ヒスタミン薬 推奨メーカー

2022年12月初版

オロパタジン 2.5mg・5mg (錠 OD錠)

キョーリンメディオ株式会社

日本ジェネリック株式会社

ヴィアトリス製薬

沢井製薬株式会社

東和薬品株式会社

フェキソフェナジン 30mg・60mg (錠 OD 錠)

キョーリンメディオ株式会社

沢井製薬株式会社

日本ジェネリック株式会社

株式会社陽進堂

ニプロ株式会社

(AG：日医工株式会社)

レボセチリジン 2.5mg・5mg (錠 OD錠)

日本ジェネリック株式会社

高田製薬株式会社

沢井製薬株式会社

ニプロ株式会社

共和薬品工業株式会社

(AG：武田テバファーマ株式会社)